

第36号 (4月号) 2016年 4月1日	七里ヶ丘子ども若者支援研究所 それが社会参加だ！	住所:鎌倉市七里ヶ浜東2-31-12 連絡先:090-7212-4055 Email:qq5656r9@happytown.ocn.ne.jp 編集長:新舩秀浩 発行責任編集:滝田衛
--------------------------------	------------------------------------	---

3月26日「第3章いじめ・不登校解決へ市民サミット開催準備会議」開催

地域と学校と家庭で子どもを

私は、学校が閉鎖的であると感じています。子どもは家と学校にしか居場所がありません。子どもにはもっと選択を与えるべきだと思います。だから、地域との連携が重要だと考えています。地域と学校と家庭で子どもを支えていくことが大切だと思います。子どもが安心できる大人の存在が必要だと思います。子どもが絶望しないように、信頼できる大人が必要だと思います。本日のキーワードとしても出てきたように、大人が「気づき、見守る」ことは、子どもと向き合う上で、大切な最初の一步だと考えています。本日は貴重なお話をありがとうございました。 《参加者:石田礼奈さんの感想より》



司会の安川有里さん
川辺悟史さん撮影

報告 この会議に参加して、新たな発見をすることができた(参加者)



講演する篠原宏明さん
川辺悟史さん撮影

第一部NPOジェントルハートプロジェクト理事篠原宏明さんに「いじめその実態 大人社会に提言する」をタイトルに講演して頂きました。ご自身のお子様を亡くされた経験をもとに、現在のジェントルハート理事の活動を通していじめの本質を語っていただきました。

『生きる力を奪う、心と体への暴力』というジェントルハートのいじめ定義からお話は始まり、男子に多い

暴力型いじめ、女子に多いコミュニケーション型いじめを分析してくださいました。さらに、いじめは様々な手口で「死」へと追いつめると。知られていない言葉『被害者責任論』、いじめられた側に責任があるというロジックを解説いただきました。「あなたにも悪いところがあるのでは?」「なぜもっと早く言わないのか?」「死ぬほどの勇気があれば、何だって出来る。」と被害者に責任の一端があると。篠原さんは、加害



増田正義さん撮影

者には「なぜいじめたのか」とは聞かず人権侵害」と説明してほしいと。しかし、低い。学業では成績を上げろ、スポーツヤーに押され、そのストレスがいじめへと発まれている現実を解説してくれました。一えないのか)については、「いじめに負け「今まで以上に大ごとになり、より大きな理を語りかけました。

被害者のSOS発信は黄色信号ではなく赤信号

被害者のSOS発信は黄色信号ではなく赤信号なので学校が一体となり外部とも連携して対応して欲しいと。そして篠原さんは、「いじめ解決のポイントは、いじめる側がいじめをやめればいじめは解決する」という極めてシンプルで鋭い提言をしてくださいました。報告者としては『被害者、いじめられている側のみのケアではいじめはなくなる』という事を強く感じた講演でした。

葛藤 学校に行きたくてもいけない

次に現在不登校の渦中にある、小林大真さんが話してくださいました。学校に行きたくても行けない葛藤、そこで自分の趣味(神社仏閣研究に基づき Wikipedia 書き換え その他多数 滝田加筆)に打ち込み、昨年12月より東京大学・日本財団ROCKET2期生という快挙を成し遂げています。参加者から感動の声が。「小林大真さんの不登校に至る気持ち、その後の正直な気持ちを知り、何て謙虚なことと思いました」(匿名)「素晴らしい脱帽のお話でした」(武藤武さん)「中一の男子がしっかりとスピーチしたことです。彼の話の中に『学校に行きたい…』という言葉があったこと。「嫌でたまらない学校、それなのに心の片隅から離れない学校、とても胸が痛みました」(山本陽子さん)。



小林大真さん
増田正義さん撮影

立場をこえた発言 教育委員会の方が特によかった



第二部では民間、行政の有識者に集まっていたいただき議論しました。皆さん様々なアプローチでいじめ・不登校のお話をしてくださいました。来場された方々の多くはいじめ・不登校に理解がある方々で、理解のない人々へどのようにいじめ・不登校の理解を進めるのか課題も残りました。

最後に登壇者に感謝を込めお名前を紹介させていただきます。講演者「NPO法人ジェントルハートプロジェクト」理事篠原宏明様、小林大真様。民間団体から上江洲慎理事長(鎌倉てらこや・鎌倉)、明石紀久男代表(遊悠楽舎・逗子)、稲森文子様(学童保育おっぱま・横須賀)、滝田衛(アンガージュマン・横須賀、研究所・鎌倉)。教育委員会から大森智グループリーダー兼指導主事(神奈川県)、丹治美穂子課長(横須賀市)、小野憲副主幹兼指導主事(逗子市)、相田良一教育センター所長(鎌倉市)。皆様本当にありがとうございました。当日の参加者は73名、お忙しいところありがとうございました。今秋“いじめ不登校解決サミット”本番開催へお知恵お力下さい。提言・参加・ボランティアお待ちしております。(新舛秀浩)

感想+1 弱さを知る人間…自分を救う、そして誰かを救う…

今は子どもだけでなく大人でも人間関係の作り方が変わってきていると思います。でも何時代だろうが人を大切に想う、大切にすることは変わらない。子どもの変化に気付くには本気で向き合う信頼関係を持たないと変化にすら気づかないと思います。私達は不安や弱さがある人間だからこそ理解する事ができる。弱さを知る人間だからこそ、人生を生きてきた経験は、人と関わる上で自分をも救うし、その自分に付けた力がまた誰かを救う。今日は沢山を学び、気付かせていただき、ありがとうございました。今後、子どもたちと関わる上で役立てたいです。

《参加者:石塚直子さん》

【ご参加ください】 応援団会議は横須賀市・市民サポートセンターで行います。皆様ぜひご参加下さい。	4月研究所開設日程 相談時間10時～16時 土日訪問はご相談			
	6日(水)	お休み	20日(水)	相談
	7日(木)	お休み	21日(木)	研究所活動
	13日(水)	相談	27日(水)	相談
	14日(木)	研究所活動	28日(木)	研究所活動
	17日(日)	応援団会議		

写真撮影は 増田正義さん(笑顔で子育て横須賀) 川辺悟史さん(会員) 感謝します